

# 作品名：アルバム研究所

## ① 作品の概要

アルバムづくりは、子どもの成長記録をする上でも重要なツールとして従来から多くの家庭で作られていました。

一つの理由として、それまでは出力する必然性があった為ですが、写真を取り巻く環境がデジタルに移行し、必ずしも出力をする必要がなくなった今、敢えてアルバムをつくる意味を明確にしていく必要があると考えました。

これまで、アルバムの価値観は「何となく良いもの」「大切なもの」という感覚的な価値観でしか語られず、その実際的な意味や意義についての研究はありませんでした。

本研究は大阪教育大学 小崎准教授に委託研究を依頼し、「アルバムが子育てに与える影響の研究」や「アルバムづくりの愛着形成の研究」を行い、一連の活動を「アルバム研究所」としてその結果をWEB上で公開しています。

### ■代表研究者紹介



小崎 恭弘 氏

大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座（保育学）准教授

1968年生まれ。（兵庫県出身）

97年武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科終了。09年関西学院大学大学院人間福祉研究科後期博士課程満期退学。91年西宮市市役所初の男性保母として採用・市役所退職後、神戸常盤大学を経て、現職。専門は「保育学」「児童福祉」「子育て支援」「父親支援」

### ■主な研究内容

研究開始時期：2016年4月～

#### 「子育てにおける写真及びアルバムの意義に関する実証的研究」

- ①子育て世代における写真とアルバムに関する意識と現状調査
- ②アルバム活用が親の子育てと子供の成長に与える影響について
- ③アナログとデジタルとの写真の受け取り方の違い

#### 「フォトアルバムの作成による対象児童への愛着形成に関する検討」

実際に子どものアルバムを作成することで、写真に映っている子どもに対して愛着を抱くようになるのかを、心理実験を用いて実証

## ② 課題の着眼点

写真のデジタル化に伴い、ショット数が増え、必ずしも出力する必要がなくなった写真を、印刷してアルバムに綴じることは手間であり、

社会や家族構造の変化によって、多忙を極める子育て層にとってはハードルの高い作業となりました。

しかしながら、子育てにおけるアルバムづくりは感覚的に「良いもの」「つくるべきもの」という価値観は依然として存在し、実際、その中でも、アルバムは一定数市場を保ち、作られています。

それらアルバムの感覚的な価値観や意義を探り、子育てに対する影響を明確にすることで、これまでアルバムを作っている家庭は勿論、作っていない家庭に対しても「子育てツール」の一つとして活用していただけたらと考えました。

# 作品名：アルバム研究所

## ③ 課題へのアプローチ

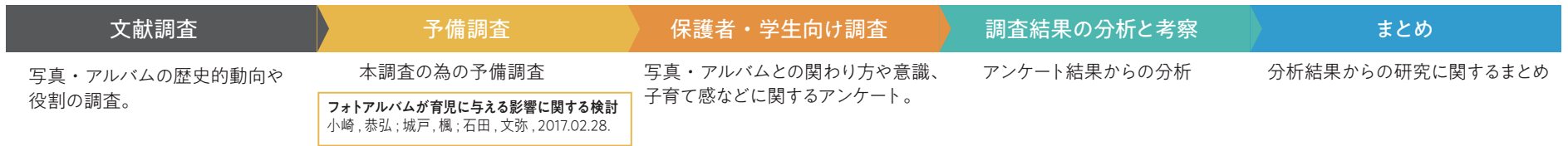
研究にあたり、大阪教育大学の小崎准教授に委託研究を行いました。

### 研究1、子育てにおける写真及びアルバムの意義に関する実証的研究

#### 研究の目的

- 保護者にとっての写真・アルバムの作成と所持することの意義を明らかにする。
- 大学生と成長と「写真・アルバム」の関連性を明らかにする
- アルバムの子育て支援ツールとしての有用性を検討する。

#### 研究の方法



#### 調査内容の抜粋



##### 保護者向けアンケート

兵庫県・大阪府2都市の幼稚園・保育園・認定子ども園に子ども通わせる保護者を対象

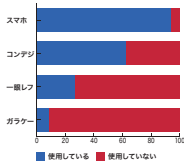
有効回答数

計 **645** 人

Q 写真を撮る時に使用する機器は？

A スマホが多く使われている。

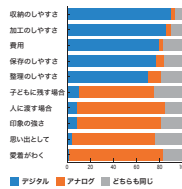
肯定的回答に、スマホが約94%に対しコンパクトデジタルカメラが約62%と、撮影機器がスマホに移行しつつあることが分かりました。



Q デジタルとアナログ写真の比較

A 利便性ではデジタル、感情面はアナログ写真が優性。

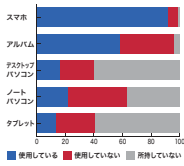
デジタルは加工のしやすさ・費用等の利便性で、アナログは愛着や思い出の品などの感情面で評価が高くなりました。



Q 写真・データを見る頻度と媒体は？

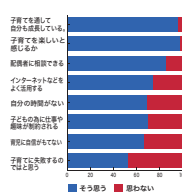
A スマホが大多数、アルバムも活用。

スマホが最も使用されており、次いで、アルバムについても、時々使用している層が多い結果となりました。



Q 子育てに関する意識

多くの保護者が子育てに対して、肯定的な考えですが、一方で自分の時間がない、仕事や趣味の制約を受ける、育児に自信が持てないなど、実質的な不安を持っていることが分かりました。



##### 学生向けアンケート

国立大学法人大阪教育大学に通う学生を対象

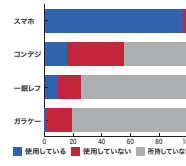
有効回答数

計 **354** 人

Q 写真を撮る時に使用する機器は？

A 大多数がスマホと回答。

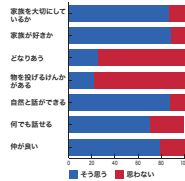
ほとんどがスマホと回答。学生にとっては撮影機器=スマホであることが分かりました。



Q 家族について

A 全体を通して家族感は良好と言える

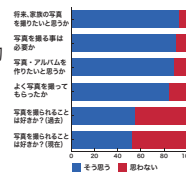
調査では、一部の学生は不和を抱えているものの、多くの学生の家族への親密性は高く、日常的に会話がされていることが分かりました。



Q 写真との関わりについて

A 写真・アルバムに対するイメージは肯定的

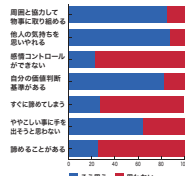
写真・アルバムに肯定的なイメージを持っていました。また、将来、家族との関わりに写真やアルバムを用いたいと考えている事も分かりました。



Q 自身について

A 意識的に成熟した学生が多い印象

調査においては学生の多くは、課題に対する持続力や、感情コントロール・協調性等を意識しており、比較的、成熟した学生が多いことが分かりました。



# 作品名：アルバム研究所

集計されたアンケート結果を、重回帰分析などの手法で分析。その関係性と傾向を導き出します。

## 解析結果



アルバムを活用している保護者ほど**ポジティブな子育て観を抱く傾向**がある。



アルバムのある家庭ほど、子どもの**家庭への「親密度・愛情」などが強く「家庭不和」が低くなる傾向**にある。



写真・アルバムと関った経験の多い子どもほど**「自立性・協調性」などの自己形成が強く現れる**。

## まとめ

写真・アルバムに関わることは子どもの成長にとって、自己効力感が高く、他者との関わりに長けた人格形成に良い影響を与えるといえる。

次に心理実験による、アルバムづくりが子供への愛着を形成するか否かの研究を行いました。

## 研究2、フォトアルバムの作成による対象児童への愛着形成に関する検討

### 1 学習フェイズ：子どもの写真でアルバムをつくる

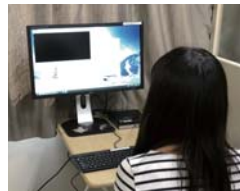
<テストのイメージ>



アナログアルバムをつくるグループ



デジタルアルバムをつくるグループ



写真を記憶するグループ

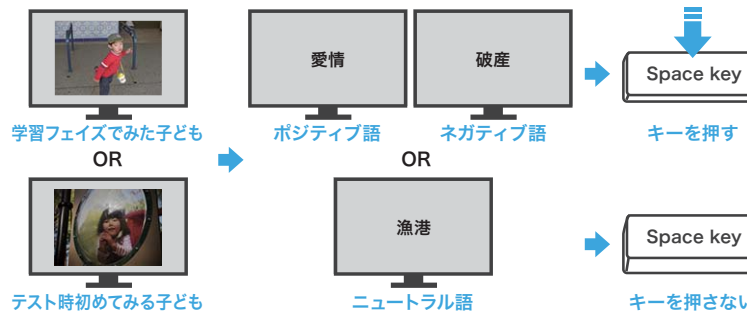
被験者を、

- 「アナログアルバム」をつくるグループ
- 「デジタルアルバム」をつくるグループ
- パソコンに表示された「写真を記憶する」グループ

の3つに分けて、それぞれ作業させる。

### 2 テストフェイズ：IATという心理テストを受ける

<テストのイメージ>



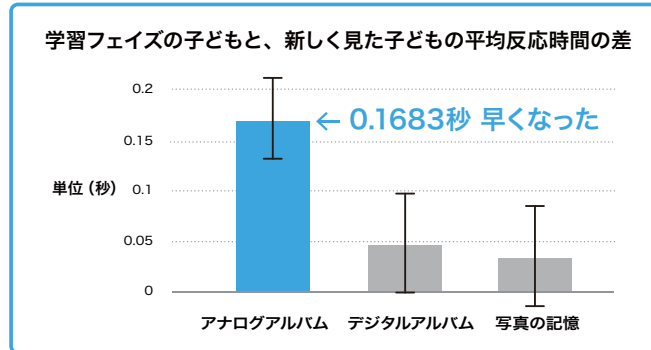
パソコン画面上に、学習フェイズで見た子どもと、テスト時に初めて見る子どもが表示され、次に熟語が表示される。熟語がポジティブ・ネガティブであればボタンを押し、どちらでもなければ何もしない。この反応の差を分析する。

# 作品名：アルバム研究所

## 3 結果

この心理テストでは、先に表示された対象物に対して、愛着が強いほどポジティブ語には反応が早く、ネガティブ語には遅くなることが心理学上で明らかになっています。

3つのグループの内、アナログアルバムをつくったグループだけで、ポジティブ語に対する反応差が0.1683秒と**明確に早くなりました**。



**まとめ** アナログアルバムをつくると、その子どもに対して 愛着が形成されると言える。

## 4 実績・ユーザーの評価・エビデンス

本研究の結果によって、これまで感覚的であったアルバムづくりの意味が明らかになってきており、子育てを行う上で重要なものであると再認識をしました。これらの結果は論文として公表されており、またアルバム研究所サイトでも公開をしています。

また弊社で主催する展示会やイベントでも紹介をしており、少しでもアルバムをつくる動機としていただきたいと考えております。

今後は、例えば、アルバムづくりのどのアクションにより子供への愛着が形成されるかなどを明確にして、児童虐待などのネグレクトに対する子育て支援ツールとして、アルバムづくりを活用いただける様にしていきたいと考えています。

### 論文について

フォトアルバムが育児に与える影響に関する検討  
石田文弥, 小崎 恭弘, 城戸 楓



写真・アルバムとの関わりと育児意識の関係  
石田文弥, 小崎 恭弘, 城戸 楓



フォトアルバムの作成による対象児童への愛着形成に関する検討  
城戸 楓, 小崎 恭弘



### WEB ページと活動

 アルバム研究所

<https://album-labo.com/>



アルバムの日（12月5日）に講演を開催  
(2019年12月)

